

Y君とYさん

2019. 11. 25

11月6日（火）学校に電話があった。事務室の方からの話によると、「教え子のYさんという方からです」ということであった。すぐにそれはY君だとわかった。

もうかれこれ30年近くになる。私の最初の勤務校は福島空港がある玉川村の玉川第一小学校だった。1年目に小学3年生を担当した。2年目にそのまま4年生を担当した。4月から転校生がやってきた。当時の玉川第一小学校に転校生がくるのは珍しいことである。今では様々な商業施設等がある玉川村だが、私が赴任した当時は福島空港ができる前で何もなかった。空港ができることが決まりコメリとセブンイレブンができた。そのセブンイレブンを経営するご家庭の息子さんが転校生だった。その当時の児童こそ電話をくれたY君である。

4年生、5年生と2年間担任した。その後年賀状のやりとりをしていたが、私が海外に行ってしまう音信が途絶えた。11月2日（土）の新聞に梁川高校創立百周年記念の特集記事が載った。私の顔写真とあいさつ文も掲載された。彼は「同じ名前だし、でも高校だし」と思い、インターネットで私の名前を検索したそうである。そして「これは間違いない」と確信し、電話をくれたのである。話すのは二十数年ぶりである。新聞の力はすごい。そしてありがたい。

彼は覚えてもらっているかどうか心配しながら電話をくれたそうである。こちらは忘れるわけがない。元気のいい明るい子どもだった。すぐに当時の記憶が蘇った。彼は、現在はご両親の後を継ぎセブンイレブン玉川店で働いている。同級生のことを聞くと、彼も含めて私が予想するメンバーが地元に残り活躍していることがわかった。なんだか嬉しかった。

玉川第一小学校を離れ私は福島市内の北信中学校に勤務することになった。現在私が勤務する梁川高校の生徒の親御さんの年代は、おおよそ私の教え子たちの年代である。もしかしたら教え子のお子さんがいるかもしれないとは4月から思っていた。4月当初はわからなかったが、徐々に生徒のことがわかってくると、やはり私の教え子のお子さんがあることがわかった。私が北信中学校で教えたYさんのお子さんだった。

先週2日間、学校公開があった。Yさんが学校に来てくれた。久しぶりというか26年ぶりに会った。廊下の端からでも、Yさんはすぐに私だとわかってくれた。私のほうは近づいていきYさんだと認識できた。「先生、変わっていない。どうしてそんなに変わらないの」と笑われた。これはよくある状況である。大抵の教え子の皆さんが同様のことを口にする。お陰ですぐに私だとわかってもらえる。いいのやらよくないのやら。

Yさんとたくさん懐かしい話をした。一度スイッチが入るといろいろなことを思い出す。向こうは私が覚えていることに驚いていた。たくさん生徒がいるのだから、そんなに覚えていないと思っていたそうである。担任をしていないし、部活動の顧問でもない。国語の授業を担当しただけである。ところが、こちらは意外と覚えているものである。Yさんが、黒板に私が自分の中学時代の恩師の名前を書いた話をしてくれた。申し訳ないが、それは覚えていなかった。その話から私の恩師が現在梁川在住であることが判明した。私の中学1年生の担任であり3年間、部活動の顧問をしていただいた先生である。梁川のご出身であることは私の記憶にも残っていた。私の恩師というより恩人である。私の恩師の話は次号に譲ることにする。

世の中狭いとよく言うが、これは“縁”でしかないと思う。教え子のお子さんを教えるわけだから歳をとるわけである。別れ際に彼女に伝えた。「息子さんに卒業証書を渡すのは私だから」